

(別添)

第58回獣医師国家試験における問題漏えいの実態関係に関する調査報告書

平成19年4月

獣医師国家試験漏えい問題調査検討委員会

1 はじめに

平成19年3月1日、2日に実施された第58回獣医師国家試験において、農林水産省に対して試験問題の漏えいに関する匿名の情報提供があった。このため、農林水産省が調査を行ったところ生化学分野の問題作成を担当した獣医事審議会試験部会専門委員が問題案として提出した10問のうち、国家試験の問題として採用された生化学分野の4問及び生理学分野の1問について、麻布大学及び東京大学の受験生の正答率が不自然に高かったことが判明した。このことを踏まえ、獣医事審議会は、試験問題が事前に漏えいしていた疑いがあるものと判断し、当該5問を全員正答とする措置が講じたところである。

本委員会は、3月20日に農林水産省消費・安全局長から、試験問題漏えいの事実関係の確認及び原因究明の実施について、今後の試験問題作成のあり方についての検討依頼を受け、これらの調査・検討を開始した。このうち の検討事項については、麻布大学及び東京大学から提出された報告書に基づき、試験問題の漏えいは生化学分野の問題作成を担当した専門委員が在籍する麻布大学からの可能性が高いと判断したことから、同大学関係者に対する聞き取り等を通じて試験問題の漏えいに関する事実関係について調査を行った。

本報告書は、この調査に基づき把握された事実関係についてとりまとめたものであり、今後の関係者に対する処分及び再発防止策の検討に資するべきものである。

2 本委員会による調査の実施内容

(1) 麻布大学教職員に対する聞き取り調査

第1回聞き取り調査

実施日：3月22日～23日

場 所：麻布大学

対象者：西田教授、鈴木教授、政岡学長、有嶋獣医学部長その他計8名

注：西田教授及び鈴木教授に対する聞き取りには、渋谷委員及び島田委員同席

第2回聞き取り調査

実施日：3月30日

場 所：農林水産省

対象者：西田教授及び鈴木教授

(2) 受験生に対する聞き取り調査

麻布大学の受験生に対する聞き取り調査

実施日：3月22日～30日

場 所：麻布大学（面談による調査時）

対象者：獣医学科6年生143名のうち62名

（面談による調査20名、電話による調査42名）

東京大学の受験生に対する聞き取り調査

実施日：3月22日

場 所：東京大学

対象者：獣医学科6年生29名のうち15名

(全て面談により実施)

3 本委員会による調査結果

調査の結果、本件に係る事実関係は以下のように整理される。

(1) 専門委員の任命の経緯

これまで国家試験の生化学分野の問題作成を担当していた専門委員が退官することから、同専門委員の推薦を受け、農林水産省は、平成18年4月17日に麻布大学鈴木教授に対し専門委員への就任を打診し、内諾を得た。

その後、農林水産省による専門委員への任命の手続きの際、麻布大学学長は、鈴木教授の息女が同大学6年生で国家試験を受験する予定であることから、鈴木教授に対し、委員への就任を辞退するよう促し、5月17日鈴木教授は専門委員への任命を辞退した。

これを受け、農林水産省は、麻布大学に他の適任者の推薦を打診したところ麻布大学より生理学教室の西田教授を推薦する旨の連絡があった。この際、西田教授の生化学分野での研究実績及び本人が作成可能である旨の意向を示していることについて麻布大学からの報告があったことから、農林水産省は、西田教授の生化学分野の問題作成を担当する専門委員への任命が適当であると判断し、6月6日に西田教授を専門委員に任命した。

(2) 問題作成の経緯

専門委員の任命を受けた西田教授は、専門委員への就任を受諾した直後(5月下旬)に体調を崩して入院するなど自ら問題を作成する上で健康上の不安があったこと、鈴木教授が生化学分野の講座を担当しており、より質の高い問題作成が可能であると考えたことから、6月下旬に鈴木教授に問題作成の協力を依頼した。その後、7月に鈴木教授は、自分が専門委員への就任を打診された後に国家試験の問題案として作成していた10問を西田教授に渡している。西田教授は、鈴木教授から受け取った問題案について、微修正を加えたものの、ほぼそのままの形で7月31日に国家試験の問題案として獣医事審議会事務局に提出している。

なお、西田教授は、鈴木教授に国家試験の問題として利用する旨を伝えたとしている一方、鈴木教授は試験問題作成の参考として渡したとしており、問題案の利用について両者の認識は一致していない。

(3) 口述筆記の経緯

鈴木教授は、11月9日の総合獣医学の講義において、国家試験の受験に当たって

の心構えや過去の国家試験の問題について学生に説明した後、講義の最後に、国家試験の予想問題として、西田教授に渡した10問の問題を学生に口述筆記させた。この日の講義に出席していた学生による録音記録によれば、鈴木教授は、以下の通り講義で発言している。

(講義録音の口述筆記部分)

それではいよいよ今日のハイライトです。

今までの問題をずっと精査していくと、私は、こんな問題が出る可能性があるんじゃないかと、勝手に夢をみるんですが、それをプリントせずいろんな資料がありますので、口頭で申し上げます。だから、聞き逃す人は聞き逃して下さい。10個ほどあります。

(以下、10問の問題と解答を読み上げ)

今日、夢見た問題を皆さんに露出します。これは、・・・単位に出る学内試験には一切でませんので、いいですね。もっとあとで出るかもしれない。あとはそれぞれの思いで・・・勉強してください。今の10問を。これ以上は、私は言えないよ。

この講義には、ほとんどの6年生の学生が出席しており、その場でメモを取らなかった者もその後口述筆記をパソコンで打ち直したものを入手している。本委員会が聞き取り調査を行った麻布大学受験生62名中61名がこの問題を入手しており、そのうち20名が実際に国家試験に出題される可能性があるとの認識を持っていたことが判明している。

なお、鈴木教授は、口述筆記させたことについて「学生に新しい問題を解かせたいという意図であった」と説明している。

(4) 他大学への流出の経緯

麻布大学で口述筆記された問題は、その後、2月に麻布大学の受験生から東京大学の受験生に電子メールで送信された。この問題を入手した東京大学の受験生は東京大学の受験生の間で共有しているホームページに掲載し、ほとんどの東京大学の受験生がこの問題を入手することとなった。本委員会が聞き取りを行った15名の受験生のうち13名がこの問題を入手していたが、その全員が予想問題の一つであり、実際に国家試験に出題されるとは認識していなかったと述べている。

また麻布大学の受験生から日本獣医生命科学大学及び東京農工大学の友人に対しても問題が提供されていることも判明しており、正答率が不自然に高かった2大学以外の大学の一部の受験生にも問題が流出していたことが確認された。

4 まとめ

(1) 本委員会による事実関係の調査の結果、国家試験の生化学分野の問題作成を担当する専門委員の任命を受けた麻布大学の西田教授が同僚の鈴木教授に問題作成の協力

を依頼し、鈴木教授は自らが作成した問題案を西田教授に渡したこと、その後、鈴木教授は、西田教授に渡した問題と同一の問題を11月9日の講義で国家試験の予想問題として学生に口述筆記させていたことが明らかになった。

西田教授は、専門委員の任命を受け、自ら生化学分野の問題を作成する責務を有しているにもかかわらず、同僚の鈴木教授に国家試験の問題作成の協力要請を行い、かつ協力を得た後、問題の漏えいを防止するための措置を十分に講じることなく、放置した結果、鈴木教授から問題案が学生に漏えいしたことの責任は極めて重い。

また、鈴木教授についても、西田教授が国家試験の生化学分野の問題作成を担当している専門委員であることを知りつつ、国家試験の問題としてほぼそのまま利用可能な形で問題案を渡している。したがって、西田教授に渡した問題が国家試験にそのまま又は一部改変された上で採用されることが十分予見できたものと判断される。それにもかかわらず鈴木教授は11月9日に行われた講義においてこの問題を国家試験の予想問題として学生に口述筆記させ、そのことによって問題が漏えいした結果を招いた責任は極めて重い。

したがって、この両者に対しては当局による厳正な処分が検討されるべきである。

(2) また、この調査により、農林水産省による獣医事審議会専門委員の任命過程において、その息女が国家試験の受験を予定しているか否かなど専門委員の適格要件が事前に明らかではなかったこと、鈴木教授からの辞退があった後も麻布大学に対し適任者の推薦を要請したこと、教育分野が異なることを十分配慮せずに専門委員に任命したこと、専門委員に課せられた守秘義務についての説明はされていたが十分ではなかったことなどが明らかになった。

このような経緯を踏まえ、国家試験の問題作成を担当する専門委員の任命方法など国家試験の問題作成のあり方について、必要な見直しを行っていくべきであり、本委員会において今後検討を進めていく必要がある。